

会 議 録

会議の名称	第4回 戸田市自治基本条例推進委員会
開催日時	平成28年 8月 2日(火) 午後7時00分～9時00分
開催場所	戸田市役所 大会議室A
委員氏名	<p>◎□ 大山 宣治 ○□ 横山 誠 □ 宮崎 快</p> <p>■ 千葉 修平 □ 西久保 裕康 □ 柴田 忠雄</p> <p>□ 丸山 利男 ■ 播 義也 □ 市川 悦夫</p> <p>□ 武内 利行 ■ 菅原 光正 ■ 岡本 莉奈</p> <p>■ 伊藤 寛幸 □ 遠藤 英樹 ■ 細田 昌孝</p> <p>□ 川上 実雪 □ 廣井 佑磨 □ 松下 啓一</p> <p style="text-align: right;">(◎委員長 ○副委員長)</p> <p style="text-align: right;">(□出席 ■欠席)</p>
事務局	後藤課長 矢作副主幹 元谷主事 大内主事補
議 題	<p>1 協働に関する議員アンケートについて</p> <p>2 3者のアンケート結果の比較について</p> <p>3 自治基本条例の周知啓発について</p> <p>4 平成29年度事業について</p> <p>5 その他</p>
会議の経過	別紙のとおり
会議資料	<p>1 第4回会議資料</p> <p>2 協働に関する議員アンケート 単純集計</p>
議事録確定	<p>平成28年 8月23日</p> <p style="text-align: center;">委員長 大山宣治</p>

(会議の経過)

発言者	議題・発言内容・決定事項
委員長	1 開会 2 議事 議事1、2については関連がありますので、一括して事務局から説明願います。
事務局	<u>1 協働に関する議員アンケートについて</u> (1) アンケートの概要 全市議会議員(24人)を対象に実施 回答数は24件、回答率は100.0% 今回のアンケートをもって、市民・行政・議会の意識や現状を把握することができた。この結果を今後の活動の参考にしていく。 (2) 集計結果 ・ 地域活動・市民活動団体との関わり 「両方と関わったことがある」が75%であり、関わり方としては、「自身が団体のメンバーである」(91.7%)、「活動の手伝い、補助」(70.8%)の順に回答が多くなっている。 関わったことで良かった点は、「相手方の考えや思いを知ることができた」(75.0%)、「専門的な知識や情報を得ることができた」(62.5%)、「相手方との連携が取りやすくなった」(58.3%)の回答数が多くなっている。 逆に苦労した点については、「特にない」(41.7%)の回答数が一番多くなっている。 ・ 自治基本条例に関して 「読んだことがある」が100%となっている。 条例の制定による活動上の変化を感じている議員は約40%であり、反対に変化を感じていない議員(50%)のうち75%が「条例制定より前から、そのような意識をもって活動していたため」と回答している。 ・ 協働について 「よりよいまちづくりを実現するためには必要不可欠である」(62.5%)の回答が一番多くなっている。 ・ 「協働のまちづくり」に関して 議事2「3者のアンケート結果の比較について」で詳しく説明する。 <u>2 3者のアンケート結果の比較について</u> ○ 「自治基本条例」の認知度 市民の認知度としては、「条例名も内容も知らない」(67.8%)の回

	<p>答数が一番多く、それに対して市職員と市議会議員については「読んだことがある」の回答数が多く、それぞれ 67.8% (市職員)、100% (市議会議員) である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 協働のまちづくりを進めるために市民にできること (求めること) 共通して回答数が多いのが「地域の交流を深め、助け合える関係をつくる」である。(市民：52.4% 市職員：47.4% 議員：45.8%) 「地域活動・市民活動への積極的な参加」については、市民 (29.3%)、市職員 (38.2%) と議員 (62.5%) で傾向の違いが出ている。 「まちづくりの一員としての意識を持つ」は反対に市民 (41.4%) と市職員 (41.4%) の回答数が多く、議員 (25.0%) との違いが見える。 ○ 協働のまちづくりを進めるために行政ができること (すべきこと) 「市民と行政が対話しやすい環境づくり」(市民：46.5% 市職員：52.1% 議員：50.0%) と「市民への情報提供・市民との情報共有」(市民：44.5% 市職員：50.0% 議員：70.8%) が3者とも共通して回答数が多くなっている。 ○ 協働のまちづくりを進めるうえでの課題 (市職員・議員のみ) 「協働で事業を進める人的・時間的余裕がない」(市職員：46.2% 議員：54.2%) と「協働に対する市民の理解が不足している」(市職員：39.6% 議員：58.3%) が共通して回答数が多くなっている。 また、選択肢の内容は若干異なるものの、相互理解が不足していることについては両者ともに実感している。 市職員「行政と市民の相互理解が不足している」：38.5% 議員「市民・議会・行政の相互理解が不足している」：41.7%
委員長	<p>今の説明を受けて、何か質問等はあるか。</p>
委員	<p>「協働のまちづくりを進めるために市民にできること (求めるもの) は何か」という質問に対して、市民と市職員は「まちづくりの一員としての意識を持つ」という回答が高いのに対し、市議会議員は「地域活動・市民活動への積極的な参加」という回答が高かった。なぜこのような差が生まれたのか。</p>
委員	<p>個人的な意見になるが、市議会議員はすでに地域活動・市民活動に積極的に関わっている場合が多いため、「意識を持つこと」は当然と考えているのではないか。そのため、「参加すること」が重要だと考える方が多いのではないか。 また、市議会議員は立場上目に見える結果が必要だという意識があることがこのような結果が出た要因の一つではないかと推察される。</p>
委員	<p>市議会議員は熱意も行動力もあるが、そうではない市民はどうしてよいか分からないのではないか。仕事等で日中はほとんど市内にいない方にどうやってアプローチしていけばよいのか、考える必要がある</p>

委員	<p>と思う。</p> <p>「市民同士の連携によって、地域課題を自分たちで解決する意識を持つ」と回答した割合が、市職員・市議会議員は高いが、市民は低く、ここに意識の差を感じた。逆に市民は「まちづくりの一員としての意識を持つ」と回答した割合が高く、市民にとって課題解決はまだハードルが高いものと感じているのではないか。</p> <p>「地域課題を解決する意識をもつ」という点については、自治基本条例によって進めていく必要があると思う。</p>
委員	<p>「協働のまちづくりを進めるうえでの課題は何か」という質問に対し、市職員・市議会議員ともに「協働で事業を進める人的・時間的余裕がない」を回答した割合が高い。</p> <p>協働には色々な形がある。本来、協働とは、一緒にやることだけではない。直接関われなくても、公共的な取り組みをしている人を応援したり、後押ししたりするだけでも立派な協働と言える。</p> <p>例えば、神奈川県葉山町では以前、職員が海岸の掃除を毎日行っていた。当初は不審がられていたが、毎日のように続けることで市民から励ましの言葉をかけられるようになった。</p> <p>そう考えると、人的・時間的余裕は関係ない。これは協働について誤った認識をしている人が多いことが影響していると思われる。このような課題は自治基本条例を制定している多くの自治体で共通しており、地道に啓発を進めていくしかないと考える。</p> <p>あくまで協働は「いいまち」になるための一つのツールであり、目標ではないことを忘れないことが重要である。</p>
事務局	<p><u>3 自治基本条例の周知啓発について</u></p> <p>①市制施行50周年記念事業「とだ50祭」での啓発活動 第4回会議資料により説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とだ50祭の概要 ・啓発内容の案 <ul style="list-style-type: none"> (A) ブースを出展し、チラシ、マンガパンフレット等を配布 (B) 会場内で委員がビラ配り等をして練り歩く (C) 各出店者を回り、自治基本条例について広める
委員長	<p>「とだ50祭」での啓発活動について、皆様の意見をお聞きしたい。</p>
委員	<p>のぼり旗や立て看板等があると目印にもなるので良いと思う。</p>
委員	<p>チラシやマンガパンフレットを配布する場合は、どのようなものを配布するのか。</p>
事務局	<p>マンガパンフレットは昨年度作成したものを配布し、チラシは「と</p>

	だ50祭」に向けて新たに作成して配布することを想定している。
委員	チラシは「自治基本条例はこのようなものだ」ということを全面に出すのではなく、町会・自治会活動のように、地域で具体的にどのような活動がされているかをアピールすべきである。
委員	ブースを設けるなら、パネルを作成して展示しても良いと思う。
委員	単にチラシ等を配布するだけでは、なかなかお客さんが集まってくれないのではないかと。チラシと一緒に何か配るなど、お客さんが集まってくれるような仕掛けを考える必要があると思う。
委員長	実際に「とだ50祭」に出展するのであれば、また有志ミーティングのような形で集まる必要があると思う。
事務局	その方が委員会としても良いと考える。皆さんに、当日だけではなく、それに向けた準備にも関わってもらうことになる。
委員	チラシを配るといっても、「自治基本条例」だけでは正直分からないのではないかと。何かしら具体例が必要である。
委員	アンケートの結果からも、市民・議会・行政の三者がそれぞれの距離を縮めたいと考えていることが読み取れる。例えば、市議会議員にブースに居てもらい、気軽に話せるような機会を設ける、といったことはできないだろうか。
委員	時間を区切って、交代制にすれば可能かもしれない。
委員長	皆さまに意見をいただき、おおよその方向性が見えてきたと感じる。より具体的な詳細は、日を改めて有志で集まり検討したい。
事務局	②自治基本条例フォーラム 第4回会議資料により説明 ・フォーラム内容の案 （案）1 まだ地域に出ていない人対象 （案）2 すでに活動しているひと対象 （案）3 町会と市民活動の出会いの場 （案）4 各委員からの意見 ・予算措置
委員長	フォーラムの実施内容について、皆様の意見をお聞きしたい。
委員	過去のフォーラムに参加したが、客入りが非常に少ないと感じた。フォーラムを開催する以上、客入りは重要になるため、フォーラムの

	<p>内容や集め方は重要になると考える。特に、条例を周知する、というだけでは興味を持つ人は少ないと思う。</p>
委員	<p>人を集めるために工夫をする必要があると思う。例えば、無作為抽出で案内を送付するという方法がある。来年度以降でも良いので、検討していただきたい。</p>
委員	<p>ギネス記録に挑戦するというのはどうか。多くの市民で一つのことを成し遂げれば、それが協働の体現ということになると考える。</p>
委員	<p>フォーラムを開催するに当たり、2つの観点がある。1つ目は、条例をより広く周知するため、より多くの市民を集めるということ。2つ目は、フォーラムを地域課題の解決のためのツールと捉え、関係する市民を重点的に集めるということ。フォーラムの目的によって変わってくるので、まずそこを明確にすべきである。</p>
委員	<p>講師を呼んで話をしてもらおう、という形式より、実際に戸田市で活動している人に話してもらったり、参加者同士で話せたりするような形式の方が良いと思う。また、今ある活動をさらに前進できるような内容が良いと思う。</p> <p>ギネス記録挑戦も個人的には良いと思う。多くの人が同じものと一緒に取り組むことができる。その結果、一体感や達成感を感じることができる。</p>
委員	<p>「戸田といえば〇〇」というような売りがなかなか見つけにくいのが現状である。ギネスに挑戦することで、「〇〇でギネスに挑戦したまち」という形で多くの方に認識してもらえないのではないか。</p>
委員	<p>50周年と絡めた内容にしても良いのではないかと。例えば、色んな誕生日の市民を集めて、「50年間のカレンダーを作ろう」というイベントも面白いと思う。</p>
委員	<p>「新しい人を取り込む」のではなく「新しい人たちも興味を持つような内容」を考えるべきかもしれない。地域活動でいうと、町会・自治会から未加入世帯（多くは新たに転入した人たち）に近づいていくことも必要だと思う。また、子どもを巻き込むと親も一緒に来てくれる。</p>
委員	<p>戸田市は、長く住んでいる人と、新しく住み始めた人が混在しているまちであるため、互いに話をできる機会を作るのはどうか。</p>
委員	<p>市民の自治基本条例の認知度は非常に低いために人を集めるのが難しいのだと思う。まずは町会・自治会の人たちに出席してもらい、条例について説明することで、各地域に広めてもらうのはどうか。</p>

委員	<p>町会・自治会では、加入率の低下が問題となっている。町会・自治会の人たちが集まり、互いにどのような問題があるか共有したり解決策を考えたりするのはどうか。</p> <p>また、問題点だけでなく、このようなことをしたら上手くいった、という「プチ自慢」を紹介し合うのも良い。</p>
委員	<p>町会の活動や課題を全体で話し合う機会は、現状ではなかなかないと思われる。そのような場を委員会で設けるのはどうか。</p>
委員	<p>問題点のようなマイナス面を話すだけでなく、「プチ自慢」のようなプラス面も共有することは重要だと考える。</p> <p>ただ、町会・自治会だけをターゲットにしない方がよいと思われる。町会・自治会活動はあくまで地域活動の一つである。</p>
委員	<p>町会・自治会に関するイベント等を実施するにしても、町会・自治会に加入していない人にも参加してもらいたい。</p>
委員	<p>町会・自治会はまちを良くするための1つのツールであると考え、NPO等、他の団体とつながりを持つことが重要ではないか。</p>
委員	<p>町会・自治会の話が中心になっているが、自治基本条例はより幅広い人たちが対象になっている。町会・自治会に限定せず、市民活動などを含めてより多面的な要素を含んだ内容で実施すべきではないだろうか。</p>
委員	<p>フォーラムの内容が決まれば、「とだ50祭」で周知をすることもできる。</p>
委員	<p>単年で考えるのではなく、今年度は町会・自治会、次年度はまた別のテーマ、というように、年度毎にテーマを変えていくという方法も良いと思う。</p>
事務局	<p>フォーラムについても、「とだ50祭」と同様、より具体的な詳細は日を改めて有志で集まり検討したい。</p>
	<p>4 平成29年度事業について</p> <p>第4回会議資料により説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他市の事業の事例
事務局	<p>来年度の予算編成に当たり、今の段階で来年度にどのような事業を実施するか話し合いをお願いしたい。また、今期の推進委員会は平成29年11月までであり、市長への答申も視野に入れていただきたい。</p>

委員	本委員会の開催回数が少ないのではないかと。来年度から、回数を増やすことはできないか。
事務局	回数の増加について検討したい。
委員	現状、委員会の回数が少ないこともあり、事業を行うにしてもあまり多くのことはできない。自治基本条例フォーラムを推進委員会の柱に据え、毎年テーマを検討していくのはどうか。
委員	推進委員自身の理解をより深めるため、他の自治体への視察を実施するのはどうか。
委員	「視察」というよりは「交流」として実施したほうが良いと思う。静岡県焼津市のフォーラム等、参考になる事例はたくさんあるので、他の自治体のイベントに参加して、そのあと交流の機会を設けると良いのではないかと。
委員	子どもが参加できるイベントが良いのではないかと。あと、条例の名称が分かりにくいので、キャッチフレーズのようなものを作った方がよいと思う。
委員	フォーラムを複数回開催して、いくつかのテーマで開催するのはどうか。
事務局	それでは、会議の回数の増加、他市への視察、標語の作成を中心に進めていきたい。
事務局	<p>5 その他</p> <p>次回の委員会の日程は、平成28年11月を予定している。</p> <p>また、委員長・副委員長・事務局で話し合い、「とだ50祭」と自治基本条例フォーラムの詳細を検討できる機会を設けるため、8月中に有志の委員に集まっていただきたい。</p> <p>3 閉会</p>